

経済マンスリー [原油]

米国のナイジェリア産原油輸入が大幅減少

原油価格 (WTI 期近物) は米国財政不安の後退や地政学リスクの高まりを受けて、1 月半ば以降は 95 ~ 97 ドル台の高値圏で推移した (第 1 図)。しかし 2 月下旬以降は、イタリアの政局混迷や米歳出強制削減措置の発動による景気先行き不安が嫌気され、原油価格は 90 ドル台へ下落した。その後は、堅調な米経済指標を受けて原油価格は反転したが、キプロス問題が上値を抑え、足元では 93 ドル近辺で推移している。

米国の原油輸入量は 2005 年の 1,013 万バレル (日量、以下同) をピークに減少傾向にあり、2012 年は前年比 44 万バレルの 849 万バレルとなった。米国の原油輸入量が減少している背景として、米国景気鈍化やエネルギー効率の向上、シェールオイル増産が挙げられよう。

輸入相手国別にみると、ナイジェリアからの輸入の減少が顕著であり (第 2 図)、2011 年の 77 万バレルから 2012 年には 41 万バレルとほぼ半減した。他方、カナダやサウジアラビアからの輸入量は増加している。

ナイジェリアからの輸入が大きく減少したのは、米シェールオイル増産の影響とみられる。ナイジェリアから輸入する原油は主に軽質低硫黄原油であり、ノースダコタ州バッケン等で採掘されるシェールオイルと類似した品質である。ただし価格は、ナイジェリア産がシェールオイル (バッケン産原油) より高いことから、米国の石油精製会社はナイジェリア産原油の輸入を減らし、シェールオイルへのシフトを進めているとみられる。

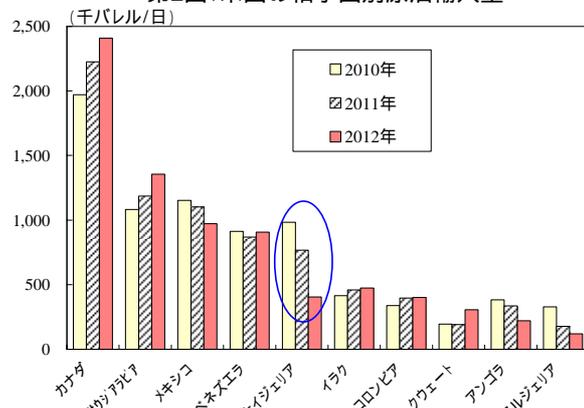
一方、サウジアラビアからの原油輸入の大半は中質中硫黄原油であり、シェールオイルとは品質が異なることから、代替する動きはみられない。米国のシェールオイル増産に伴う原油輸入減少が予想されているが、輸入相手国の原油の性質によって、その影響度合いは大きく異なっている。

第1図: 原油価格 (WTI期近物) の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図: 米国の相手国別原油輸入量



(注) 米国エネルギー省資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。